

令和7年度大分川・大野川学識者懇談会 議事概要

日時：令和7年9月30日（火）14：00～17：00

場所：大分河川国道事務所 別館第1,2会議室

【出席者】

島田委員長、大上委員、佐藤委員、東野委員、本谷委員、細井委員

◆：委員、●：事務局

【大野川水系河川整備計画の変更について】

※説明のみ

【大野川水系河川整備計画の変更について】

◆：気候変動の影響と計画流量の妥当性・気候変動による降雨量・流量増加の計算根拠や、1.2倍の流量設定の妥当性について確認

●：今までの蓄積した雨量データを基に、大野川でいくと年超過確率 1/100 規模、要は100年に一度起こるであろう洪水について、確率で計算して出てきた雨量に対して1.1倍を掛けております。計算のやり方としては、雨量に1.1倍掛けてシミュレーションをして、ピーク流量がどのぐらい出てくるかを考えた上で計算していきまして、前の計画に対して1.2をそのまま掛けているわけではありません。

◆：乙津川の目標は変更しないことの理由確認

●：河道と背後地の影響を考えるとリスクが高くなるので1,500m³/sのままということで、残りは本川だという考え方です。

◆：津波と洪水が同時に発生した場合のリスク評価や、津波対策の必要性について

●：河川行政としては、津波と出水と一緒に発生する頻度は低く、ハード整備と一緒に発生することを想定しておりません。ただ、洪水と津波が一緒という計算をしているわけではありませんけれども、南海トラフで津波が発生すると、大野川では水位が4.25まで上がる計算です。それを出発水位としても上流のほうまでは影響がないので、津波がもし起こったとしても、計算上では今の時点では、大野川の下流は流下能力が高いので、その影響はないと考えております。

◆：環境・水質への配慮 ・鶴崎橋付近の水質（BOD 値超過や赤潮発生）について、整備計画が水質改善に寄与するか

●：鶴崎橋で毎年、寒い時期と春頃に赤潮が発生しているのは確認しております。
その赤潮などを考えた上で河床低下対策を設定しています。もともと河床が湾曲、波のような形になって水が全然動かない場所からプランクトンが上昇して赤潮が発生するというメカニズムがあると思いますので、河床をなだらかにすることによって潮の満ち引きによる水の動きができれば、その流れて赤潮の発生を抑えられるのではないかと考えています。それを今後、また河床低下対策を実施した後にモニタリングして検証していきたいと考えています。

◆：企業・住民参加と情報発信 ・企業の流域治水活動への参加促進や、認証制度の導入によるインセンティブ付与の状況確認、子供向けの情報発信について

●：企業向けということで、今の時点ではこういった形で認証を取って、社会貢献の仕組み、充実、民間の支援というものをどうするかはまだ決まっていないところがありますので、御意見を踏まえて今後いろいろ考えていきたいと思っています。
子供向けの情報発信については、小学校などで出前講座などをやっておりますので、その中で何かしらアンケートを取っていきたいと考えています。

◆：環境目標の定量化とモニタリング方法の確認、他水系での先行事例の有無について

●：河川環境整備と保全に関して、河道管理環境検討委員会といった場も含めて順応的管理を行っていく取組を考えています。今年度、整備計画を変更する河川について定量目標を設定することとなっており、他水系における先行事例はございません。

◆：審議の結果、学識者懇談会として、「大野川水系河川整備計画（変更原案）の内容」を了承する。